

3. 管理運営計画の基本事項

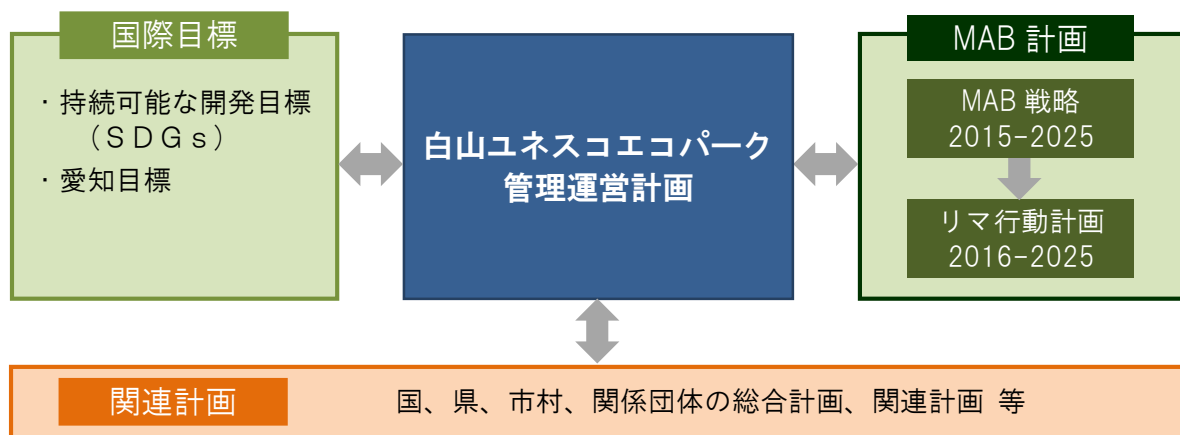
3.1 計画の趣旨

白山ユネスコエコパーク管理運営計画(以下、本計画という。)は、核心地域及び緩衝地域の法令等に基づく適正な管理並びに主に移行地域での住民や自治体等が主体となった管理運営に関して、白山ユネスコエコパーク協議会の総意を持って、管理運営に関する指針として策定するものです。

3.2 計画の位置づけ

本計画は、持続可能な開発目標(SDGs)^{※4}や愛知目標^{※5}の達成を視野に入れながら、ユネスコが掲げるMAB計画に基づくMAB戦略^{※6}2015-2025 とリマ行動計画^{※7}2016-2025 等の国際的なワークフレームに同調させていきます。

また、管理運営の基本方針として2015年10月に策定された、「白山生物圏保存地域管理・運営基本方針」(白山ユネスコエコパーク協議会)を基礎に、国及び白山ユネスコエコパークを構成する4県7市村や関係団体の総合計画、関連計画等と整合を図りながら施策を展開していきます。



計画の位置づけ

※4 持続可能な開発目標(SDGs)：2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されている。

※5 愛知目標：2010年10月の生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)で採択された「生物多様性を保全するための戦略計画2011-2020」の中核をなす国際目標。2020年までに生物多様性の損失を食い止めるための効果的かつ緊急の行動を実施するための20の個別目標がまとめられた。

※6 MAB戦略：生物圏保存地域を通じた、世界的な持続可能な開発目標に貢献するための包括的ながら簡潔な枠組みのこと。

※7 リマ行動計画：MAB戦略2015-2025の効果的実施を目的とした活動を包括的かつ簡潔にまとめたもの。なお、MAB戦略及びリマ行動計画は、ユネスコの中期戦略(2014年～2021年)やセビリヤ戦略及び生物圏保存地域世界ネットワーク定款に沿いつつ、マドリッド行動計画(2008年～2015年)の後継として策定された。

持続可能な開発目標(SDGs)(17のゴール)

- ゴール1：貧困をなくそう
- ゴール2：飢餓をゼロに
- ゴール3：すべての人に健康と福祉を
- ゴール4：質の高い教育をみんなに
- ゴール5：ジェンダー平等を実現しよう
- ゴール6：安全な水とトイレを世界中に
- ゴール7：エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- ゴール8：働きがいも経済成長も
- ゴール9：産業と技術革新の基盤をつくろう
- ゴール10：人や国の不平等をなくそう
- ゴール11：住み続けられるまちづくりを
- ゴール12：つくる責任 つかう責任
- ゴール13：気候変動に具体的な対策を
- ゴール14：海の豊かさを守ろう
- ゴール15：陸の豊かさも守ろう
- ゴール16：平和と公正をすべての人に
- ゴール17：パートナーシップで目標を達成しよう



愛知目標(20 の個別目標)

- 目標 1 : 人々が生物多様性の価値と行動を認識する。
- 目標 2 : 生物多様性の価値が国と地方の計画等に統合され、適切な場合には国家勘定、報告制度に組み込まれる。
- 目標 3 : 生物多様性に有害な補助金を含む奨励措置が廃止、又は改革され、正の奨励措置が策定・適用される。
- 目標 4 : すべての関係者が持続可能な生産・消費のための計画を実施する。
- 目標 5 : 森林を含む自然生息地の損失が少なくとも半減、可能な場合にはゼロに近づき、劣化・分断が顕著に減少する。
- 目標 6 : 水産資源が持続的に漁獲される。
- 目標 7 : 農業・養殖業・林業が持続的に管理される。
- 目標 8 : 汚染が有害でない水準まで抑えられる。
- 目標 9 : 侵略的外来種が制御され、根絶される。
- 目標 10 : サンゴ礁等気候変動や海洋酸性化に影響を受ける脆弱な生態系への悪影響を最小化する。
- 目標 11 : 陸域の 17%、海域の 10%が保護地域等により保全される。
- 目標 12 : 絶滅危惧種の絶滅・減少が防止される。
- 目標 13 : 作物・家畜の遺伝子の多様性が維持され、損失が最小化される。
- 目標 14 : 自然の恵みが提供され、回復・保全される。
- 目標 15 : 劣化した生態系の少なくとも 15%以上の回復を通じ気候変動の緩和と適応に貢献する。
- 目標 16 : ABS に関する名古屋議定書が施行、運用される。
- 目標 17 : 締約国が効果的で参加型の国家戦略を策定し、実施する。
- 目標 18 : 伝統的知識が尊重され、主流化される。
- 目標 19 : 生物多様性に関する知識・科学技術が改善される。
- 目標 20 : 戦略計画の効果的実施のための資金資源が現在のレベルから顕著に増加する。